

令和4年度 第3回 豊岡小学校運営協議会 議事録

- 1 開催日時 令和5年2月10日（金） 14時20から16時00まで
- 2 場 所 豊岡小学校 会議室
- 3 出席委員 中川秀三、疋田和俊、加茂哲夫、松下宗央、木下清史、山田秀直、山田万祐子
野末のぞみ
- 4 欠席委員 大津和也
- 5 学 校 鈴木右二（校長）、和久田仁（教頭）、夏目浩敬（主幹）
松野聖子（CSディレクター）
- 6 教育委員会 小川指導主事（教育総務課）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 協議事項 (1) 議長の選出について
(2) 前回会議録確認
(3) 熟議
・学校関係者評価
・来年度の学校運営の基本方針
・学校支援ボランティアについて（報告）
- 9 会議録作成者 CSディレクター 松野聖子
- 10 会議記録 司会の和久田教頭から、委員数9人のうち8人の出席があり過半数に達しているため会議が成立している旨の報告があった。
議長の山田万祐子委員が議事を進行した。
議長の指示により夏目主幹から別紙資料に基づき説明があり協議事項の観点が提案された。アンケート結果の「自分の良さを生かす」「意見の発信」の項目に関して三者とも低い数値になっている事について様々な視点から熟議した。委員より以下の発言があった。
・子供たちは学校が楽しいに尽きる。のびしろがあるからあせらなくて良いと思う。しっかりと先生方に指導を行ってほしい。（中川委員）
・先生たちが個々に応じてほめてあげるのが大事。自己肯定感より自己高揚感を認めてあげたい。（疋田委員）
・子供たちが、自分のよさを生かすという事が低いが先生たちはどう理解しているか。（加茂委員）
・素直で優しい子が多い反面子供たちが自分に自信がない。（教頭）
・先生方は心配事があるから厳しい評価だと思う。子供たちはあいさつがすごくできていると思う。何か町内会でもできる活動があればと思う（木下委員）
・人前で話すのが得意で自分の意見を言えるロールモデルの様な子は各学年にいるのか。（山田万祐子委員）
・学校行事に参加した時には発表をする意欲的な子が多かった。意見を言う子はいつも同じ子なのか。（野末委員）
○来年度の学校基本方針について
議長の指示により、校長から別紙資料に基づき学校基本方針について説明があり委員から以下の発言があった。
・不登校の子供たちにICT機器は有効なのか。（中川委員）

- ・ グランドデザインに意思の強さを感じる。（疋田委員）
- ・ 校長先生の方針が素晴らしいので学校だよりなどで発信してほしい。

（加茂委員）

- ・ 子供を見守るうえで教員が不足していると思うがどの程度不足しているのか？
解消していく道すじがあると良い。（松下委員）
- ・ タブレットを利用し不登校の子と学校をつなぐとの事だが授業の様子や声などを聞いて不安になる子もいると思う。子供たちは色んなバリエーションの先生と接してもらいたい。（山田秀直委員）
- ・ タブレットを利用し不登校の子と学校をつなげば休み時間の声や子供たちの様子を見て、「学校に行きたい」と思うかもしれない。校長先生の気持ちを声に出して伝える場が欲しい。教科担任制は人員不足で厳しいのではないか。「ほめれば人は育つ」ほめる事が大切だと思う。（山田万祐子委員）
- ・ 校長先生の素晴らしい考えを保護者・全校児童に伝えたい。子供たちは担任以外の先生に良くされた事を覚えている。多くの先生と接して欲しいが、人手不足と言われてしまうと何とも言えない。（野末委員）
- ・ フリーの先生方が昇降口に立ち子供たちに率先して声を掛けてくれている。ありがたい。（校長）

○学校支援ボランティアについて（報告）

- ・ 12月に行われた持久走記録会のお手伝いの要望があったことを受け、見守り隊の募集を行い20名程の保護者の方々の協力を得られる事ができた。当日は危険なコース付近にて児童を見守り・声掛けを行い、スムーズな大会運営への協力ができた。
 - ・ 学校内にあるビオトープの管理についての要望があり専門知識のある方・地域のボランティアとの交流の機会をもち、今後のビオトープの管理についてアドバイスをいただいた。自然を通じた教育を行える可能性があるため、今後少しずつ手を入れていくこととなった。
- 協議の結果、全員異議なくこれを承認した。